

こうのとり

但丹家畜衛生だより

第55巻（令和6年3月）

朝来家畜保健衛生所

（兵庫県畜産協会朝来支部）

TEL(079)673-2331・FAX(079)672-0506

E-mail : asagokhe@pref.hyogo.lg.jp

ホームページ: <https://www.kaho-hyogo.jp/>



泡殺鳥機システムを用いた鳥インフルエンザ防疫演習
(令和5年9月12日朝来家畜保健衛生所)

目次

巻頭言	1
泡殺鳥機システムを用いた防疫演習を実施しました	2
但馬牛が好きで牛舎も建てちゃいました～新規就農の取り組み～	3
肥育農場で発生した牛マンヘミア症	4
BSE検査対象牛の変更について	5
全国及び県内の監視伝染病発生状況	5
獣医療広告制限の見直しについて	6
新任職員紹介	6
一年の計は元旦にあり	7

ごあいさつ



所長 加登 岳史

平素は、家畜衛生の推進について、御理解と御協力をいただき厚くお礼申し上げます。

令和5年度も残り少なくなりましたが、昨年5月の新型コロナウイルス感染症の5類移行後、個人消費やインバウンドの増加により日本経済が回復傾向にあります。そのような中、元日の能登半島地震が発生し、被災された方々にお見舞い申し上げます。

さて、価格高騰、円安傾向が続く中、畜産関係でも飼料価格が高止まりしています。国では配合飼料価格安定制度の補填を発動し、県でも12月補正予算で独自の支援を打ち出し、畜産経営への影響の緩和に務めているところです。

肉用牛では、全国の子牛・枝肉平均価格が低迷の中、但馬牛においては堅調に推移しており、子牛平均価格では前年対比で108%と上昇しており、特に12月は前年月対比で淡路市場が121%、但馬市場で115%と、両市場とも平均価格は90万円を超えました。また、枝肉の平均価格（去勢）でも対前年比126%で推移しているところです。

養鶏では、飼料価格の高騰、鳥インフルエンザの発生により、鶏肉・鶏卵とも季節性の変動等はあるものの例年を上回る水準で推移しています。また鳥インフルエンザの発生は、令和4年シーズンほどの勢いではないですが昨年11月から8県9事例*が確認されています。本県においても、3年連続で発生がありましたが、今シーズンは今のところ清浄性が維持できているところです。しかし、野鳥等では全国的に感染が確認されており、渡り鳥が帰る5月上旬頃まで警戒が必要ですので、引き続き防

疫対策の徹底、飼養衛生管理基準の遵守をお願いします。

養豚では、豚熱の感染が止まることなく、本年度は7月に本県南あわじ市、8月には野生いのししでの感染確認がない九州佐賀県の養豚場2戸で発生し、現在20都県90事例*となっております。

県内では、野生いのししでの豚熱感染が191例*と拡大しており、養豚等での発生リスクが高い状況です。防護柵の点検や消毒の徹底など、引続き飼養衛生管理基準の遵守をお願いいたします。

本県では「ひょうご農林水産ビジョン2030」に沿った施策展開を進めています。当所としても安全な畜産物の供給や畜産経営の維持、継続に向け、畜産農場におけるHACCP対応や畜産GAPの取得を推進し、安全・高品質な畜産物の生産強化を図るとともに、口蹄疫や豚熱、鳥インフルエンザ等家畜伝染病の発生・まん延防止にも取り組んでいます。

管内には、農場HACCP・畜産GAPを取得された農場があり、今後も取得に向けた農場支援を実施していきますので、気軽に相談してください。

新型コロナウイルス感染症の緩和により、人・物の動きが回復してきていることから、当所としても家畜伝染病の発生予防、畜産物の生産性向上対策など、家畜衛生の分野で、管内の畜産振興に寄与して参りますので、職員一同、引き続きよろしく願いいたします。

*令和6年2月22日現在

泡殺鳥機システムを用いた防疫演習を実施しました

防疫課 上嶋 芹菜

全国の家きん農場において高病原性鳥インフルエンザ（以下HPAI）は今シーズンでは8県9事例の発生が確認され、殺処分数約71万羽（令和6年2月22日時点）となっており、警戒が必要です。HPAIの発生に備え、令和5年9月12日、当所においてHPAI発生時の家禽の殺処分方法の一つである泡殺鳥機を用いた防疫演習を実施しました。

【泡殺鳥機システム】

本システムは、発泡装置とホース自動巻取装置および給水用水槽で構成され、発泡剤と水を混ぜることで中～高程度の張力の泡を産生し、鶏舎内の鶏を覆います（写真1,2）。泡を吸い込んだ鶏は気道閉塞を引き起こし、低酸素状態となることで死亡します。

床面積800m²の鶏舎に対し、約20分で発泡が終了することから、炭酸ガスを用いた殺処分（以下ガス殺）よりも少人数、短時間で多数の鶏を殺処分することが可能です。

充填できる泡の高さに限界があり平飼い鶏舎での使用が前提となるため、平飼いの肉用鶏農場が多い当所管内では本装置の使用は有効であると考えます。

【鶏舎内への発泡】

当所駐車場にテントで模擬鶏舎を設置し、泡を充填させました（写真2）。

使用手順は、延長ホースのついた発泡装置を鶏舎最奥に移動させた後、ホース自動巻取装置が巻き取ることで入口に向かって移動しながら発泡を行います。今回の演習では、泡放出前の装置内への充填必要量と合わせて発泡剤を約34L（模擬鶏舎面積108m²）、水は約3.4t使用しました。

また、発泡による鶏の死亡状況を確認するため、模擬鶏舎の四隅等に生きた鶏を5羽ずつ配置して観察しました（写真3）。

その結果、発泡終了後、約5分で死亡したため、迅速な殺処分が可能であることが確認できました。



（写真1）

（写真2）

【2階建鶏舎での使用】

2階建鶏舎で使用する際、高低差による発泡装置の出力低下が懸念されるため、演習では小型のハンディタイプの発泡装置を用いて、約3.3mの高さから発泡しました。結果、問題なく発泡でき、2階建鶏舎でも使用できることが確認されました（写真4）。



（写真3）

（写真4）

【まとめ】

今回の防疫演習を通して、泡殺鳥機システムの性能、準備等一連の流れを確認できました。本システムは、運搬に時間を要することや設置場所に制約があるなど課題もありますが、ガス殺と比べて、作業員数削減と作業時間短縮の利点があります。今後は、防疫演習で得られた知見や課題を整理し、本システムを用いた防疫措置の体制を整備します。

但馬牛が好きで牛舎も建てちゃいました ～新規就農の取り組み紹介～

衛生課 浦本 京也

令和5年12月、但馬家畜市場で1頭の去勢子牛が競り落とされました。出荷したのは香美町小代区の水間達哉さんです。令和4年から繁殖農家として但馬牛を飼い始めて、ついに市場デビューです。

本格的な冬を迎え、降り積もる雪の中、新築の牛舎に母牛を迎え入れ、防寒着を着込んで子牛の分娩に立ち会い、手塩にかけて育てた子牛と、やっとこの日を迎えました。

* * * * *

家業は畜産農家ではありませんでしたが、おじいさんの影響で子供の頃から但馬牛が好きで、毎日のように近所の牛舎に遊びに行ったりは、餌やりをしたり子牛と遊んだり、時には放牧場に牛を連れて行ったりする生活でした。

地元の中学校を卒業し、但馬農業高校へ進学、ここで牛飼いの基礎を学ぶとともに、但馬牛繁殖農家になることを具体的に考えるようになりました。中でも平成29年9月の第11回全国和牛能力共進会宮城大会への参加は特別な出来事でした。復興特別出品区として開催された「高校の部」に、3人の同級生とともに哺育育成した「はなふく号」を出品・プレゼンし、優秀2席という立派な成績をあげました。周囲の応援を得ながらのこの経験はとても大きな財産となっています。

卒業後は(株)上田畜産に就職し、但馬牛が大好きな上田伸也社長や先輩たちにいろんなことを教わりながら、牛飼いの技術を身につけてきました。勤め初めの頃は、経験や体力の不足などを感じ、「しんどい」と思ったこともありました



2月市場で

が、好きな但馬牛に関われることでつらいと思ったことはありませんでした。

令和元年頃から牛舎の用地探しや関係先との資金計画の相談を行い、畜産クラスター事業を活用し令和4年に念願の牛舎を建てることができました。並行して良い繁殖牛を導入して子牛生産を始めています。まだ上田畜産に勤めながらの牛飼いなので、朝と夕方に牛舎に戻り牛の世話をする生活ですが、体力や頑張りには自信があります。

今年度の県畜産共進会では、雌2区に初出品したものの優秀賞と少し悔しい結果でした。育成や調教の技術をもっと確かなものにし、加えて経営者として勉強もしていかななくてはなりません。1年1産と良い子牛作りを経営の両輪として、ゆくゆくは良い血統の牛をそろえ増頭も進めていきたい、と少しずつ着実に歩を進める決意です。

* * * * *

但馬には、若い生産者や後継者がたくさんいます。「まだまだ若いもんには負けんぞ」というベテランの牛飼いはもっとたくさんおられます。水間さんには牛飼仲間と共に但馬牛を盛り上げていただけると、当所も応援していきます。